



国際アングリカン典礼協議会：

ACC-18 への報告

国際アングリカン典礼協議会（IALC）は、アングリカン・コミュニオンの典礼に関する公式ネットワークである。これが存在する目的は次のとおりである。

- アングリカン教会の務めに不可欠な典礼と祈りの生活を新たにすることにより、アングリカン・コミュニオンの教会間の交流をさらに深めること。
- 管区とコミュニオンのインストルメントに典礼と祈禱文の疑問について助言し、アングリカンの典礼神学と実践に触れる疑問について管区間の対話を奨励し支援すること。
- アングリカン・コミュニオンおよびエキュメニカルパートナーの間の典礼の形成と実践の展開をレビューし、管区とコミュニオンのインストルメントにそれらに関する助言を与え、これらのことをアングリカン・コミュニオン内およびエキュメニカル関連において共通理解、一貫性および統一性を促進することを目的として行うこと。
- 典礼の形成、展開および実践の分野で新たな提案を行おうとする管区を支援すること。および
- その活動の範囲と結果をアングリカン諮問評議会に報告すること。

メンバーシップ

- 管区典礼委員会のメンバー
- 管区によって任命された人
- [Societas Liturgica](#) のアングリカンメンバー

運営委員会

運営委員会は、IALC のメンバーによって選出され、Revd ニール・ヴィガース（ACO）の招集により定期的なオンライン会議を開催し、ネットワークの活動を監督し、将来の協議会を計画する。

The Revd クリスティン・ベノイト（インド洋）

The Revd Canon シンティア・ボサ（南アフリカ）

The Ven デーン・カートニー（オーストラリア）

The Revd Canon ケイス・ギリフィス - 議長（2022 年 8 月辞任）（南部アフリカ）

The Revd Canon Dr サイモン・ジョーンズ - 議長（2022 年 8 月より）（イングランド）

The Revd チュン-ワイ・ラム（香港）

The Revd Dr ルイス・テイシエラ・コエーリョ（ブラジル）

The Revd ニール・ヴィガース（ACO）

ACC-17 以降

IALC は 2021 年 5 月 4 日から 6 日までオンラインで協議会を開催した。 コミュニオン全体から 63 人のメンバーが登録し、パンデミック前の集まりから大幅に増加した。 3 日間の各日に 2 回の接触時間があった。 個人のプレゼンテーション、グループワークおよび全体セッションを通して、次のトピックが検討された。

- 1 新型コロナウイルスの世界的大流行時のアングリカンの典礼に関する検討
- 2 主教の典礼形成 - 最後の対面協議会（2020 年香港）で始まった「すべての洗礼を受けた人の典礼形成」に関する IALC の活動の一部
- 3 アングリカン・コミュニオン・カレンダー - セクレタリー・ゼネラルの要請による

協議会の終わりには、各作業を継続するために 3 つのグループが作られた。1 つ目は、特にオンライン聖餐式で提起された典礼的・神学的問題を対象にした。 これら 3 つのグループからの文書案は、2022 年 12 月に IASCUFO で議論され、ACC-18 で検討される予定である。

2 つ目のグループの成果は、昨年の Lambeth Conference での典礼形成に関する IALC セミナーに送られ、主教らが招かれてその内容についてコメントした。 ビスマルク・アヴォカヤ主教（南スーダン）がセミナーの司会を務め、ニール・ヴィガース（ACO）が IALC の

活動の概要を説明し、サイモン・ジョーンズ（イングランド）が資料を発表し、その後の対話を主導した。香港のIALC（2020年）で起草された聖餐の祈りは、カンタベリー大聖堂のオープニング・クロージング聖餐式で使われた。

今後の予定

多くの管区の聖餐式の形の改定に多大な影響を与えた、聖餐式に関するIALC声明¹が発表されてから約30年がたち、運営委員会は、典礼学の発展、新型コロナウイルスの世界的大流行、文化の変容と多様性、そして聖餐式が祝われる状況の多様化を考慮し、コミュニオン全体にわたる将来の改訂と実践のために新たな声明を作成することを視野に、この作業を再考するために2回の協議会を開催することを計画している。最初の会議は2023年5月3日と4日にオンラインで開催し、2024年2月に韓国のソウルで開催する完全な対面協議会につなげる予定である。運営委員会は、管区から可能な限り広く代表の参加が可能となるよう、IALCのバーサリーファンドに資金支援を要請することを考えている。

ハイライト

2021年のオンライン協議会では、IALCの歴史の中で最も多くの管区から参加者が集まり、3つの成果が熱意と責任感を持って生み出された。

ACC-18での問い

過去30年間で、あなたの文脈において聖餐式の何が最も大きく変わったか。また、そうなった要因は何か。

サイモン・ジョーンズ
国際アングリカン典礼協議会 議長
2023年1月

¹ アングリカン聖餐式の見直し：第5回アングリカン典礼協議会の所見, ed. David R. Holeton (Nottingham: Grove Books, 1996)